

書名	著者	冊数	定價	郵税	發行所	番號
日々に禮儀作法	小泉 迂外	一	五、〇〇	〇、八	岡村書店	一〇〇
禮法の巻	下田 歌子	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	一〇〇
禮法の巻	村野 久子	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	一〇〇
禮法の巻	村田 志賀子	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	一〇〇
衣服と整容法	青木 良吉	一	三、〇〇	〇、三	大日本文化研究會	九
化粧の巻	水島 幸子	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	三五
美人になる秘訣	文藝社編輯部	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	三五
美髪醫學新書(全)	田中 實義	一	二、三〇	〇、三	研文社	六
モダン化粧室	メイ 牛山	一	一、〇〇	〇、三	寶文館	三
洋装通	マス・ケート	一	一、〇〇	〇、三	三省堂	三七
家計簿	婦人の友編輯局	一	三、〇〇	〇、四	婦人之友社	四
家計當座帳	羽仁 もと子	一	三、〇〇	〇、四	婦人之友社	四
家計簿記(後篇)	松平 友子	一	一、三〇	〇、八	文書堂	三
家計簿記(前篇)	松平 友子	一	一、三〇	〇、八	文書堂	三
家計簿記(袋入)	松平 友子	一	一、三〇	〇、八	文書堂	三
小口現金支拂帳	松平 友子	一	一、三〇	〇、八	文書堂	三
費用帳	松平 友子	一	一、三〇	〇、八	文書堂	三

(1) 裁縫

書名	著者	冊数	定價	郵税	發行所	番號
用布節約裁方圖解	尾崎 芳太郎	一	三、〇〇	〇、四	日本文業社	一〇〇
新しい和服の裁縫	南雲 ハツコ	一	一、〇〇	〇、二	岡村書店	九
新しい和服の仕立方	菱山 衛平	一	四、〇〇	〇、八	文光社	九
家庭實用裁縫の仕方	梶山 彬	一	一、〇〇	〇、二	昭館	六
家庭實用裁縫案内	福田 梅子	一	七、〇〇	〇、六	網島書店	四
家庭和服新裁縫書	今村 品子	一	二、五〇	〇、三	盛林堂	四
着物の流行と織物	鹿島 英二	一	一、〇〇	〇、三	三省堂	一
現代裁縫學習帳	東京裁縫教授會	一	一、〇〇	〇、三	三省堂	一
現代和服裁縫書(上下)	裁縫研究會	二	二、五〇	〇、三	商會	一
現代和服裁縫書(第一卷)	裁縫研究會	一	一、二五	〇、二	商會	一
現代和服裁縫書(第二卷)	裁縫研究會	一	一、二五	〇、二	商會	一
現代和服裁縫書(第三卷)	裁縫研究會	一	一、二五	〇、二	商會	一
現代和服裁縫書(第四卷)	裁縫研究會	一	一、二五	〇、二	商會	一
現代和服裁縫書(第五卷)	裁縫研究會	一	一、二五	〇、二	商會	一
裁縫科の時代化	高橋 豊子	一	一、〇〇	〇、二	博文館	一
裁縫講習全書	高橋 豊子	一	一、〇〇	〇、二	博文館	一

洋服

書名	著者	冊数	定價	郵税	發行所	番號
裁縫の初歩より奥儀まで	稻庭 卯吉	一	一、〇〇	〇、八	奥村松榮堂	五
メートル裁縫の知識	高山 貞子	一	一、五〇	〇、八	崇文堂	三
裁縫の巻	喜多見 さき子	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	三五
裁縫筆記	高橋 イネ子	一	一、〇〇	〇、三	文書堂	三
裁縫獨學	稲庭 卯吉	一	一、五〇	〇、八	淡海堂	三
實用ミシン裁縫全書	栗井 くま子	一	二、三〇	〇、三	大倉書店	三
新裁縫學習法	木下 竹次	一	一、三〇	〇、八	育英書院	三
家庭武田裁縫書	武田 太郎吉	一	二、〇〇	〇、六	富山房	三
戸板裁縫全書	戸板 關子	一	一、三〇	〇、八	廣文堂	四
日常和服裁縫秘訣	原田 惠助	一	一、三〇	〇、八	廣文堂	四
標準裁縫書	大妻 コタカ	一	一、五〇	〇、八	三省堂	七
婦人服裁縫の基礎	成田 順	一	二、〇〇	〇、六	南光社	六
家庭ミシン裁縫新書	佐野 末子	一	一、五〇	〇、八	創生社	六
メートル法新裁縫書	飯塚 まつ代	一	一、四〇	〇、五	大倉書店	三
和服裁縫系統的精説(上巻)	石田 はる子	一	二、五〇	〇、三	中文館	四
和服裁縫系統的精説(下巻)	石田 はる子	一	二、五〇	〇、三	中文館	四
和服裁縫(婦人用)	石田 はる子	一	一、五〇	〇、八	日本文業社	三五
和洋裁縫	戸板 關子	一	一、五〇	〇、八	誠文堂	五

(家政) 裁縫 洋服

Table listing books on children's clothing and sewing. Columns include title (e.g., 乳児服及男児服篇), author (e.g., 穴戸ミヤ), price (e.g., 三、〇〇), publisher (e.g., 日本女子大學), and series number.

(ウ) 手藝

Table listing books on handicrafts and needlework. Columns include title (e.g., 中等手藝のこゝろ), author (e.g., 藤岡龜三郎), price (e.g., 一、〇〇), publisher (e.g., 日本實業社), and series number.

Table listing books on wool and silk crafts. Columns include title (e.g., 毛糸の編み物), author (e.g., 藤井せくら), price (e.g., 一、〇〇), publisher (e.g., 日本實業社), and series number.

Table listing books on embroidery. Columns include title (e.g., 歐米の刺繍), author (e.g., 上村百代), price (e.g., 一、〇〇), publisher (e.g., 教育研究會), and series number.

(家政) 手藝 刺繍 細工物



書名	著譯者	冊定價	郵稅	發行所	番號
西洋料理	櫻井省三	二、三〇	〇	婦女界社	三
榮養本位の簡易西洋料理	櫻井省三	一、〇〇	〇	日本社	一七
手軽に出来る家庭西洋料理	櫻井省三	一、〇〇	〇	日本社	一七
家庭向きのフランス料理	大平茂	一、〇〇	〇	婦人之友社	三
赤西洋料理法	赤堀旺安	一、〇〇	〇	大倉書店	三
訂正西洋料理法大全	宇野彌太郎	六、八〇	三	大倉書店	一三六
増補西洋料理法五百種	赤堀吉松	一、三〇	〇	日本書院	一〇四
家庭洋食五百種	赤堀吉松	一、三〇	〇	大阪屋號	六
洋食の食べ方	横山正男	一、三〇	〇	大阪屋號	六
支那料理	羅味	一、五〇	〇	實業社	一五
手軽に出来る家庭支那料理	羅味	一、五〇	〇	實業社	一五
支那料理	村井政善	一、五〇	〇	誠文堂	五
素人に支那料理	山田政平	一、〇〇	〇	婦人之友社	三
美味しく支那料理の	吉田誠一	一、六〇	〇	博文館	八七
経済的な支那料理	赤堀旺安	一、〇〇	〇	大倉書店	一六
菓子製法	梅田嬌葉	三、〇〇	三	大倉書店	一七
實験御菓子製法	梅田嬌葉	三、〇〇	三	大倉書店	一七
家庭で出来るお菓子の製法	磯野原忠雄	一、三〇	〇	早稲田大學出版部	一六

書名	著譯者	冊定價	郵稅	發行所	番號
簡易家庭製パン法	陸軍糧秣本廠	一、〇〇	〇	友會	一〇
最新和洋菓子製法	堤伊六	一、五〇	〇	朝日書房	四〇
大震災に於ける食物の 救出と記念食の提唱 附震災パン製法	丸本彰造	一、〇〇	〇	友會	四
パン焼竈の進歩	阿久津正藏	一、〇〇	〇	友會	九
家庭で出来る和洋菓子	編者之友	一、〇〇	〇	婦人之友社	一九

書名	著譯者	冊定價	郵稅	發行所	番號
主婦日記	羽仁もま子	一、〇〇	〇	婦人之友社	三
少年生活日記	編者之友	一、〇〇	〇	婦人之友社	四
第一書房自由日記	編者之友	一、〇〇	〇	第一書房	一四
第一書房手帳日記	牧野元次郎	一、〇〇	〇	第一書房	一四
ニコニコ日記	日昭館	一、〇〇	〇	昭文館	二五
ポケット常用自由日記	日昭館	一、〇〇	〇	昭文館	三

第十三類

叢書、全集、文庫、講座、雜誌、年鑑

〔一〕叢書

書名	著譯者	冊定價	郵稅	發行所	番號
あさひ叢書		六、一五	〇	精華書房	自三三
第一輯 英國新聞の解剖	卷田吉太郎	一、〇〇	〇	精華書房	三三
第二輯 支那人の見た皇軍の行動	菊池大佐	一、〇〇	〇	精華書房	三三
第三輯 荒木陸相時局談	新聞之新聞社	一、〇〇	〇	精華書房	三三
第四輯 五・一五事件と各紙の論調	新聞之新聞社	一、〇〇	〇	精華書房	三三
第五輯 書籍組合の改革	新聞之新聞社	一、〇〇	〇	精華書房	三三
第六輯 書店を認めよ	新聞之新聞社	一、〇〇	〇	精華書房	三三
學藝叢書		一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(一) 太陽研究の新紀元	關口鯉吉	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(二) 音楽の概論	兼常清佐	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(三) 素實の心理	松本亦太郎	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(四) フランスの近代畫	板垣憲徳	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(五) ヘッセルの近代畫	吹田順助	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(六) 寄生蟲の日本	小泉丹	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
(七) ノグーリ	小牧健夫	一、〇〇	〇	岩波書店	三七四
現代學生英文叢書	田中	二、六〇	三	有朋堂書店	一三
現代生活叢書	安部磯雄	一、〇〇	〇	東京堂	五
國民叢書	小林篤里	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一) 新しき修養	養	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二) 宗教の成功への近道	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(三) 國民としての常識	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(四) 新聞を讀む基礎の知識	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(五) 經濟學の知識	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(六) 日常科學の知識	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(七) 偉人の修養	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(八) 哲學の修養	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(九) 新しき年中行事	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一〇) 新しき年中行事	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一一) 藝術の善導	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一二) 藝術の善導	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一三) 文化生活の基調	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一四) 青年の進むべき道	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一五) 論理學の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一六) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一七) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一八) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(一九) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二〇) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二一) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二二) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二三) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二四) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二五) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二六) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二七) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二八) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(二九) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一
(三〇) 野球の早わかり	武内義雄	一、〇〇	〇	文藝社	一

(叢書、全集、文庫、講座、雜誌、年鑑) 叢書







書名	著譯者	冊定價	郵稅	發行所	番號
此の人を見よ	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(九) 繪畫断片	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
美學断片	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
ゲーテの言葉	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一〇) エミール	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一一) 國富論(上)	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一二) 國富論(下)	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一三) 國富論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一四) 悟性論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一五) 人生論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一六) ラオコイオン	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一七) レオバルヂ集	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
第二期 世界大思想全集					
(一八) 純粹理性批判	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(一九) 新キリスト教	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
家庭的農業組合論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
人類の一般革命	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二〇) 政治的正義	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
無産階級の政治能力	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二一) 人口論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二二) サータ・リザータス	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二三) 英雄崇拜論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二四) 學問論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二五) 宗教論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二六) 偉人論、自然論、報償論、循環論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二七) 精神分析	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二八) 論人性	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(二九) 我等何を爲すべきか	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三〇) 藝術論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三一) 功利論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三二) 自由論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三三) 實證哲學(上)	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三四) 實證哲學(下)	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三五) 第一原理	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三六) 第一原理	加藤 一夫	1.00		春秋社	七

書名	著譯者	冊定價	郵稅	發行所	番號
唯一者と其所有	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
無政府主義と社會主義	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
第三期 世界大思想全集					
(三六) 經濟學批判、賃労働と資本價值價格及利潤	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三七) 空想的、科學的社會主義	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三八) 帝國主義論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(三九) アンツ・チス・ラスト	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四〇) 論文集	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四一) ルネッサンス	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四二) ウォルデン	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四三) 文藝論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四四) 婦人論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四五) 田園工場仕事場、相互扶助論、近代科學と無政府主義	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四六) 無政府主義史	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四七) マルキシズムの崩壊	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四八) 臺灣の哲學	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
偶然の哲學	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
時間と自由意志	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(四九) 社會學原理	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五〇) 社會學要論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五一) メンタル遺傳原理	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五二) 創造的統一	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五三) 建設的文學革命論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五四) ロギーク	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五五) 眞理の意義	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五六) 神と國家論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五七) 科學概論	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
第四期 世界大思想全集					
(五八) マルクス主義の國家觀	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(五九) エテイカ	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(六〇) カントの解決	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(六一) 精神現象の分類	加藤 一夫	1.00		春秋社	七
(六二) 對話篇	加藤 一夫	1.00		春秋社	七

(叢書、全集、文庫、講座、雜誌、年鑑) 全集



書名	著者	冊定價	郵税	發行所	番號
新基督教論	サン・シモン	一			
生命の發展	ユン・グ	一			
社會改造の原理	ラッセル	一			
社會學的國家概念	ケルゼン	一			
法學的國家概念	ケルゼン	一			
美	長谷川誠也	一			
マルキシズムの改造	松本芳雄	一			
マルキシズム修正の駁論	カウツキ	一			
相對性理論	アインシュタイン	一			
量子論	シュレーディンガー	一			
教育文獻	田原純	一			
太陽の都	カネパネ	一			
ユートピア	モリス	一			
無何有郷通信	モリス	一			
ニューアトランチス	モリス	一			
佛典	友田	一			
東西宗教文獻	友田	一			
支那思想	支那	一			
第一期 世界大思想全集					
(四) 日本思想篇	井筒	三			
(五) 社會より見たる藝術	西宮	一			
(六) 歴史哲學	山本	三			
(七) 意志の自由	フツサ	一			
第二期 世界大思想全集					
(一) 充足根據の原理	河合	一			
(二) 倫理の二つの根本問題	高橋	一			
(三) 歴史哲學	向井	一			
(四) 社會科學方法論	向井	一			
(五) 現代の國家と社會	谷川	一			
(六) グエニス	賀川	一			
(七) グエニス	賀川	一			
(八) 經濟學原理(ゴナア版)	吉田	一			
(九) 政治學範典	市村	一			
(十) 古代文明研究(太陽の子)(上)	加藤	一			
(十一) 古代文明研究(太陽の子)(下)	加藤	一			

書名	著者	冊定價	郵税	發行所	番號
近代畫家論	御木本	一			
近代畫家論	御木本	一			
近代畫家論	御木本	一			
グアイコの哲學	安谷	一			
マコーレイ論文集	戸川	一			
近世社會學說史	新館	一			
美學及一般藝術學	守屋	一			
純現象學及現象學的哲學觀	鬼頭	一			
社會分業論	赤坂	一			
感情論	赤坂	一			
利益社會と共同社會	トエン	一			
(一) 哲學的感想	江田	一			
(二) 盲人に關する論書	江田	一			
百科全書 緒論	江田	一			
第二期 世界大思想全集					
一 譯文大日本史(一)	山路	一			
二 譯文大日本史(二)	山路	一			
三 譯文大日本史(三)	山路	一			
四 譯文大日本史(四)	山路	一			
五 譯文大日本史(五)	山路	一			
六 羅馬衰亡史(一)	野々村	三			
七 羅馬衰亡史(二)	野々村	三			
八 羅馬衰亡史(三)	野々村	三			
九 羅馬衰亡史(四)	野々村	三			
一〇 文藝復興史	山岸	一			
一一 佛蘭西革命史(一)	柳田	一			
一二 佛蘭西革命史(二)	柳田	一			
一三 佛蘭西革命史(三)	柳田	一			
一四 佛蘭西革命史(四)	柳田	一			
一五 十九世紀文學思潮史(一)	吹田	一			
一六 十九世紀文學思潮史(二)	吹田	一			
一七 十九世紀文學思潮史(三)	吹田	一			
一八 政治思想マキアヴェリ	佐々	一			
一九 獨逸社會主義史(一)	石濱	一			
二〇 獨逸社會主義史(二)	石濱	一			
二一 獨逸社會主義史(三)	石濱	一			
二二 獨逸社會主義史(四)	石濱	一			
二三 英國社會主義史(一)	加田	一			
二四 英國社會主義史(二)	加田	一			

書名	著者	冊数	定價	郵税	發行所	番號
三唯物論史(一)	F.A.ランゲ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
三唯物論史(二)	F.A.ランゲ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
三羅馬衰亡史(五)	E.ギボン	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
三世界文化史(一)	H.G.ウェルズ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
三世界文化史(二)	H.G.ウェルズ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
三世界文化史(三)	H.G.ウェルズ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
三十九世紀文學思潮史(四)	G.プラトナス	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
世界美術全集	喜田茂一郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
世界美術全集(別巻)	喜田茂一郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
蔬菜園藝全書	喜田茂一郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
大西郷全集	師子王文庫編	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
東郷平八郎全集	師子王文庫編	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
日蓮上人御書全集	師子王文庫編	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
二宮尊徳全集	師子王文庫編	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
萬花圖鑑	鐘木清方	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
萬花圖鑑續巻	鐘木清方	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
美人畫全集	鐘木清方	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
藤井博士全集	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第一卷 A倫理學方法論	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第二卷 B倫理學說研究	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第三卷 主觀道德要旨	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第四卷 倫理學原論	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第五卷 A正義の倫理研究	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第六卷 B國家の倫理研究	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第七卷 A倫理學の經濟	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第八卷 Bマルキシズム批判	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第九卷 A倫理學と教育	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第十卷 B日本特有道德研究	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第十一卷 A現代思潮批判	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第十二卷 B自然の世界から理想の世界へ	藤井健治郎	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
明治大正實話全集	横井時敬	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
横井博士全集	横井時敬	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
裸體美術全集	横井時敬	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
春秋社思想辭典	東洋思想辭典	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
哲學辭典	東洋思想辭典	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
歷史辭典	東洋思想辭典	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
經濟辭典	東洋思想辭典	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
政治法律辭典	東洋思想辭典	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想家人名辭典	東洋思想辭典	一冊	三〇〇	凡	凡社	三

書名	著者	冊数	定價	郵税	發行所	番號
大思想エンサイクロペディア	三省堂百科	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想用語辭典	思想名著解題(二、三、四)	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想名著解題(一)	思想名著解題(一、二、三)	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想名著解題(二)	思想名著解題(二、三、四)	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想名著解題(三)	思想名著解題(三、四、五)	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想名著解題(四)	思想名著解題(四、五、六)	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
思想名著解題(五)	思想名著解題(五、六、七)	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
大百科事典	三省堂百科	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
圖解現代百科辭典	三省堂百科	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
羽仁もと子著作集	三省堂	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第一卷 人間篇	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第二卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第三卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第四卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第五卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第六卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第七卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第八卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
第九卷 思想の生活	羽仁もと子	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
愛國少年文庫	改造社	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
富論(上巻)	竹内謙二	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
富論(中巻)	竹内謙二	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
富論(下巻)	竹内謙二	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
社會主義的發展	エンゲル	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
マルキシズム認識論	エンゲル	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
辯證法的唯物觀	エンゲル	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
哲學の實果	エンゲル	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
神學の實果	エンゲル	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
古代社會(上巻)	モルガン	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
古代社會(下巻)	モルガン	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
古代社會(中巻)	モルガン	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
エミール(上巻)	ルソウ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
エミール(下巻)	ルソウ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
國家論	ルソウ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
金融資本論	ルソウ	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
日本開化小史	猪俣津南雄	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
日本經濟論	田口卯吉	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
日本經濟學	田口卯吉	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
說の要領	田口卯吉	一冊	三〇〇	凡	凡社	三
經濟的帝國論	田口卯吉	一冊	三〇〇	凡	凡社	三

叢書、全集、文庫、講座、雜誌、年鑑

書名	著者	冊定價	郵税	発行所	番號
日本商業史	横井時冬	四、〇〇	〇、八		
日本工業史	横井時冬	四、〇〇	〇、八		
経済學の實際知識	高橋龜吉	三、〇〇	〇、四		
リッケルト論文集	リッケルト	三、〇〇	〇、四		
女工哀史	細井和喜藏	四、〇〇	〇、八		
社會進化と婦人の地位	ラッパボート	三、〇〇	〇、四		
農村問題	山川菊藏	三、〇〇	〇、四		
労働組合論	荒川實藏	三、〇〇	〇、四		
幸徳秋水集	藤井米藏	三、〇〇	〇、四		
中江兆民集	幸徳秋水	三、〇〇	〇、四		
財産起源論	中江兆民	三、〇〇	〇、四		
組織論	レヴィン	三、〇〇	〇、四		
三民主義論	鈴木厚	三、〇〇	〇、四		
唯一者とその所有	金井寛三	三、〇〇	〇、四		
世界見聞録	武陽鹽士	三、〇〇	〇、四		
全金融資本論	本庄榮治郎	三、〇〇	〇、四		
近世封建社會の研究	本庄榮治郎	三、〇〇	〇、四		
我國近世の農村問題	本庄榮治郎	三、〇〇	〇、四		
マルクスの歴史社會並に國家理論(下卷)	ハインリッヒ・カッセル	三、〇〇	〇、四		
マルクスの歴史社會並に國家理論(上卷)	ハインリッヒ・カッセル	三、〇〇	〇、四		
佛蘭西革命史(上)	クロボトキン	三、〇〇	〇、四		
佛蘭西革命史(下)	クロボトキン	三、〇〇	〇、四		
無政府主義と社會主義	淡徳三郎	三、〇〇	〇、四		
財産進化論	荒瀬三郎	三、〇〇	〇、四		
帝國主義論	岡田宗司	三、〇〇	〇、四		
帝國主義論	石澤新二	三、〇〇	〇、四		
労働價值説の擁護	塚本三吉	三、〇〇	〇、四		
經濟地理概論	菊川忠雄	三、〇〇	〇、四		
帝國主義發達史論	内田佐久郎	三、〇〇	〇、四		
マルクスの國家觀	山本一	三、〇〇	〇、四		
マルクスの經濟學	河上肇	三、〇〇	〇、四		
哲學概説	桑木嚴翼	三、〇〇	〇、四		
現代哲學思潮	桑木嚴翼	三、〇〇	〇、四		
宗教及び信仰の起源	朝永三十郎	三、〇〇	〇、四		
カントの平和論	朝永三十郎	三、〇〇	〇、四		
近代資本主義發達史論(上)	ホッブズ	三、〇〇	〇、四		
近代資本主義發達史論(下)	ホッブズ	三、〇〇	〇、四		
レーニンの唯物辯證法	佐多忠隆	三、〇〇	〇、四		
天才論	辻本隆	三、〇〇	〇、四		
佛蘭西革命史(上)	クロボトキン	三、〇〇	〇、四		
佛蘭西革命史(下)	クロボトキン	三、〇〇	〇、四		
佛蘭西革命史(中)	淡徳三郎	三、〇〇	〇、四		
無政府主義と社會主義	淡徳三郎	三、〇〇	〇、四		
財産進化論	荒瀬三郎	三、〇〇	〇、四		
帝國主義論	岡田宗司	三、〇〇	〇、四		
帝國主義論	石澤新二	三、〇〇	〇、四		
労働價值説の擁護	塚本三吉	三、〇〇	〇、四		
經濟地理概論	菊川忠雄	三、〇〇	〇、四		
帝國主義發達史論	内田佐久郎	三、〇〇	〇、四		

別類

書名	著者	冊定價	郵税	発行所	番號
ブレブス經濟學	田所輝明	三、〇〇	〇、六		
心理學概論	小宮義孝	三、〇〇	〇、六		
社會意識學概論	ボグダノフ	四、〇〇	〇、八		
經濟科學概論	ボグダノフ	五、〇〇	一、〇		
英國労働運動史	ボグダノフ	三、〇〇	〇、六		
我等の對立	ボグダノフ	三、〇〇	〇、六		
マルキシズム方法論	竹尾弼	三、〇〇	〇、六		
倫理と唯物史觀	福田次郎	三、〇〇	〇、六		
社會進化と生物進化	堀利彦	三、〇〇	〇、六		
原始財産	荒畑寒村	三、〇〇	〇、六		
唯物論と經驗批判論(上)	長野兼一郎	三、〇〇	〇、六		
唯物論と經驗批判論(下)	長野兼一郎	三、〇〇	〇、六		
社會主義への道	山川大森	三、〇〇	〇、六		
社會フアシズム論	山川大森	三、〇〇	〇、六		
阿片溺愛者の告白	大橋積	三、〇〇	〇、六		
藝術とは何ぞや	田中勝太郎	三、〇〇	〇、六		
プロレタリア文學論	辻本潤	三、〇〇	〇、六		
第一インターナショナル史第一部	木村毅	三、〇〇	〇、六		
第一インターナショナル史第二部	ベ・コトリン	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史第一部	昇・コトリン	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史第二部	昇・コトリン	三、〇〇	〇、六		
第一インターナショナル史(下)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史(上)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史(中)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史(下)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
一握の砂・悲しき玩具	夏目漱石	三、〇〇	〇、六		
雲は天才である	夏目漱石	三、〇〇	〇、六		
作白秋民諸集	北原白秋	三、〇〇	〇、六		
厭世家の誕生	佐藤春夫	三、〇〇	〇、六		
労働者の居ない船	横光利一	三、〇〇	〇、六		
海に生くる人々	葉山嘉樹	三、〇〇	〇、六		
小公	葉山嘉樹	三、〇〇	〇、六		
ホワイト・ファンク	若松賤子	三、〇〇	〇、六		
第一インターナショナル史(下)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史(上)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史(中)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
ナショナル史(下)	内垣謙三	三、〇〇	〇、六		
一握の砂・悲しき玩具	夏目漱石	三、〇〇	〇、六		
雲は天才である	夏目漱石	三、〇〇	〇、六		
作白秋民諸集	北原白秋	三、〇〇	〇、六		
厭世家の誕生	佐藤春夫	三、〇〇	〇、六		
労働者の居ない船	横光利一	三、〇〇	〇、六		
海に生くる人々	葉山嘉樹	三、〇〇	〇、六		
小公	葉山嘉樹	三、〇〇	〇、六		
ホワイト・ファンク	若松賤子	三、〇〇	〇、六		



書名	著者	冊数	定価	郵税	発行所	番號
(二)倫理學概説	深澤博士 安文	一	三			
(三)俳句趣味論	萩原井泉水	一	三			
(四)政治哲學	五來欣造	一	三			
(五)宗教教育の本質	賀川豊彦	一	三			
(六)ヘンリーのライクロフトの手記	藤野野矢	一	三			
(七)阿片溺愛者の告白	辻野	一	三			
(八)宇宙の謎	上野山	一	三			
(九)漂泊の人西行	内野山	一	三			
(一〇)社会思想と中産階級	青野季吉	一	三			
(一一)東洋音楽概説	田邊尚雄	一	三			
(一二)十九世紀獨逸思想	吹田順助	一	三			
(一三)日本貨幣史	瀧本誠一	一	三			
(一四)色蕉論	野口米次郎	一	三			
(一五)増補物價問題研究	高城仙次郎	一	三			
(一六)現代美術論集	外山卯三郎	一	三			
(一七)芭蕉俳句選評	野口米次郎	一	三			
(一八)伊太利亞美術史	坂垣鷹穂	一	三			
(一九)實驗遺傳學概説	小酒井光次	一	三			
(二〇)經濟價值概説	加田哲二	一	三			
(二一)産兒調節論	岡崎義雄	一	三			
(二二)自然科學史	岡田邦雄	一	三			
(二三)醫學と現代生活	山邊直樹	一	三			
(二四)佛敎と日本文化	小林智直	一	三			
(二五)經濟史論考	黒岩真香	一	三			
(二六)天		一	三			

春陽堂

別

類

書名	著者	冊数	定価	郵税	発行所	番號
(一)ストランドベルグ音楽家	舟木重信	一	三			
(二)寝坊な音楽家	中村白葉	一	三			
(三)泉の市	本間久雄	一	三			
(四)幸福な皇子	舟木重信	一	三			
(五)グリンム童話集	楠山正雄	一	三			
(六)イソップ物語	大木篤夫	一	三			
(七)オレ	鈴木三重吉	一	三			
(八)イソップ物語	鈴木三重吉	一	三			
(九)セメリーの馬鹿	鈴木三重吉	一	三			
(一〇)黒い	鈴木三重吉	一	三			
(一一)黒い	鈴木三重吉	一	三			
(一二)星	鈴木三重吉	一	三			
(一三)はか	鈴木三重吉	一	三			
(一四)ごんぐり小坊主	鈴木三重吉	一	三			
(一五)ごんぐりの狐	鈴木三重吉	一	三			
(一六)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(一七)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(一八)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(一九)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二〇)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二一)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二二)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二三)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二四)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二五)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二六)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二七)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二八)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(二九)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三〇)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三一)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三二)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三三)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三四)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三五)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三六)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三七)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三八)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(三九)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四〇)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四一)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四二)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四三)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四四)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四五)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四六)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四七)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四八)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(四九)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五〇)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五一)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五二)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五三)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五四)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五五)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五六)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五七)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五八)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(五九)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六〇)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六一)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六二)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六三)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六四)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六五)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六六)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六七)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六八)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(六九)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			
(七〇)あひるの王さま	鈴木三重吉	一	三			

書名	著者	冊数	定價	郵税	発行所	番號
(六九) ジャンダル・ブック	小島政二郎	一	一、二〇	〇		
(七〇) 小公子	佐々木茂索	一	一、二〇	〇		
(七一) 小公子	佐々木茂索	一	一、二〇	〇		
(七二) 馬物語	加藤朝郎	一	一、二〇	〇		
(七三) フランドーの犬	野原史郎	一	一、二〇	〇		
(七四) 太平記物語	佐藤一英	一	一、二〇	〇		
(七五) 保元、平治物語	佐藤一英	一	一、二〇	〇		
(七六) 黒い旗と白い旗	濱田廣介	一	一、二〇	〇		
(七七) エミリアンの旅	豊島與志雄	一	一、二〇	〇		
(七八) エミリアンの旅	豊島與志雄	一	一、二〇	〇		
(七九) 不眠の國	楠山正雄	一	一、二〇	〇		
(八〇) 不眠の國	楠山正雄	一	一、二〇	〇		
(八一) 鏡の國	楠山正雄	一	一、二〇	〇		
(八二) グリスマス・カロール	中島孤島	一	一、二〇	〇		
(八三) ビー・ター・パン	狩野弘子	一	一、二〇	〇		
(八四) 秘密の花園	藤森淳二	一	一、二〇	〇		
(八五) 北風	久保田万太郎	一	一、二〇	〇		
(八六) 北風	久保田万太郎	一	一、二〇	〇		
(八七) 家庭用兒童劇	坪内逍遙	一	一、二〇	〇		
(八八) まざあ・ぐうす	北原白秋	一	一、二〇	〇		
(八九) 少年雨月物語	岡康雄	一	一、二〇	〇		
(九〇) 聖フランシス	山村暮鳥	一	一、二〇	〇		
(九一) ひよどり草紙	吉川英治	一	一、二〇	〇		
(九二) 大江戸の最後	野村胡堂	一	一、二〇	〇		
(九三) 少年科學探偵	小酒井不木	一	一、二〇	〇		
(九四) 假面	大下宇陀兒	一	一、二〇	〇		

玉川文庫

書名	著者	冊数	定價	郵税	発行所	番號
教育理想の内容	小西重直	一	一、二〇	〇		
隠者の夕暮	小西重直	一	一、二〇	〇		
第二里を行く者	小西重直	一	一、二〇	〇		
塾生と語り	小西重直	一	一、二〇	〇		
ボーア表現體操	小西重直	一	一、二〇	〇		
教育精神の本質	長田新	一	一、二〇	〇		
教育即宗教論	長田新	一	一、二〇	〇		
估村隨筆	加藤武雄	一	一、二〇	〇		
文藝隨筆	加藤武雄	一	一、二〇	〇		
フレール・ベル・人の教育	小原國武	一	一、二〇	〇		
ベスタロッチーの教育思想	松本義徳	一	一、二〇	〇		
ベスタロッチーの教育思想	松本義徳	一	一、二〇	〇		
フィドラー藝術論(上・下合本)	清水清	一	一、二〇	〇		
植民を語る	東郷清	一	一、二〇	〇		
職業を語る	水野常吉	一	一、二〇	〇		
アック基本體操	玉川教育研究所	一	一、二〇	〇		
丁抹フォルクダンス	玉川教育研究所	一	一、二〇	〇		
ソコール國民運動(上)	玉川教育研究所	一	一、二〇	〇		
ソコール國民運動(下)	玉川教育研究所	一	一、二〇	〇		
ソコール國民運動(下)	玉川教育研究所	一	一、二〇	〇		
チュニオン自然體操	玉川教育研究所	一	一、二〇	〇		
ルソウのエミール	谷口武夫	一	一、二〇	〇		
教育原理と自由	小西重直	一	一、二〇	〇		
教育原理と自由	小西重直	一	一、二〇	〇		
ホルン・セザンヌ	安原喜弘	一	一、二〇	〇		
グアン・ド・ゴッホ	安原喜弘	一	一、二〇	〇		
レオナルド・ダ・ヴィンチ	富永次郎	一	一、二〇	〇		
南畫と北畫	鎌倉芳太郎	一	一、二〇	〇		

(叢書・全集、文庫、講座、年鑑)

文庫

講座

六

書名	著者	冊数	定價	郵税	発行所	番號
園基大衆講座(第一期)	坂井英太郎	一	一、二〇	〇		
園基大衆講座(第二期)	坂井英太郎	一	一、二〇	〇		
演習高等數學講座	三浦吉兵衛	一	一、二〇	〇		
高等獨逸語講座	國枝十治	一	一、二〇	〇		
公民教育講座	師範教育會	一	一、二〇	〇		
國史講座	師範教育會	一	一、二〇	〇		

九一九

(四) 講座

- (一) カント哲學物語
- (二) 戀愛の進化
- (三) マルクス資本論物語
- (四) 聖書の要領
- (五) 西洋傑作小話
- (六) 現代歐洲哲學物語
- (七) 性とエデンの園
- (八) 産兒制限の考察
- (九) 西洋獨占
- (一〇) 雄辯
- (一一) 株式取引の話
- (一二) 議會解散と普選
- (一三) ユーモア傑作集
- (一四) 日本神話
- (一五) 希臘羅馬神話
- (一六) 接吻の歴史と技巧
- (一七) 美人になる秘訣
- (一八) 性の常識
- (一九) 結婚の歴史
- (二〇) 戀愛物語
- (二一) 新しい映畫の見方
- (二二) モダン・ガール物語
- (二三) 幽霊物語
- (二四) 星のローマンズ
- (二五) 理想郷物語
- (二六) 人類の起源
- (二七) 百人一首早取法
- (二八) メツテルソン
- (二九) セシル・ロイズ
- (三〇) カイゼル・ウエルヘルム
- (三一) ウエリントン

書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號
國文學講座	昭明學會	二〇	三、〇〇	四、〇〇	凡社	〇
最新電氣講座(前後)	昭明學會	三	三、〇〇	三、〇〇	電氣の友社	三
實驗化學講座	昭明學會	二	二、〇〇	二、〇〇	凡社	〇
實際經濟問題講座	昭明學會	一	一、〇〇	一、〇〇	凡社	〇
新支那語講座	杉武夫	六	七、〇〇	八、〇〇	求文堂	〇
師範大學講座(合本)	宮島吉敏	二	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	六
本當に力受驗代數講座	師範大學	一	一、〇〇	一、〇〇	求文堂	〇
初等數學講座	師範大學	一	一、〇〇	一、〇〇	求文堂	〇
神道講座	宮地直一	一	一、〇〇	一、〇〇	四海書房	〇
續近高等數學講座	宮地直一	一	一、〇〇	一、〇〇	四海書房	〇
獨逸語講座	橋本忠夫	一	一、〇〇	一、〇〇	立社	〇
新獨逸語講座	橋本忠夫	一	一、〇〇	一、〇〇	立社	〇
日本文學講座	橋本忠夫	一	一、〇〇	一、〇〇	立社	〇
輓近高等數學講座	橋本忠夫	一	一、〇〇	一、〇〇	立社	〇
文科大學講座	橋本忠夫	一	一、〇〇	一、〇〇	立社	〇
第一篇哲學講話	紀平正美	一	二、〇〇	二、〇〇	玉川學園	三
第二篇西洋哲學史	岡野留次郎	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第三篇支那哲學	浦川源吾	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第四篇印度哲學	手島文倉	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第五篇現代の宗教哲學	赤松智城	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第六篇教育學の諸問題	福島政雄	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第七篇近世教育史論	長田新	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第八篇心理學	岩井勝二	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第九篇美學	久保良三	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第十篇文學概論	相良德三	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第十一篇西洋美術史	伊勢專一	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第十二篇自然科學概論	石原純	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第十三篇純正社會學概論	銅直勇	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第十四篇特別講座(上)	銅直勇	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
第十五篇特別講座(下)	銅直勇	一	二、〇〇	二、〇〇	植民	三
初等ブルジョア語講座	中島文重	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
最新フランス語講座	中島文重	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
名人圍碁講座	增田俊雄	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
哲學(自第一輯)	三田哲學會	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
獨逸語短期大學	山岸光宣	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
富士の研究	山岸光宣	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三

書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號
一富士の歴史	井野邊茂雄	一	四、〇〇	四、〇〇	アトリエ社	五
二淺間神社の歴史	宮地直一	一	四、〇〇	四、〇〇	アトリエ社	五
三富士の信仰	井野邊茂雄	一	四、〇〇	四、〇〇	アトリエ社	五
四富士の美術	高柳光章	一	四、〇〇	四、〇〇	アトリエ社	五
五富士の地理	柴田常憲	一	四、〇〇	四、〇〇	アトリエ社	五
六富士の植物	石原初太郎	一	四、〇〇	四、〇〇	アトリエ社	五
佛蘭西語短期大學	矢部吉貞	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
陸軍模範兵講習錄	協日本國防會	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
美術アトリエ	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
應用物理	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
科學	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
學校體育	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
「カナノヒカリ」	カナモジカイ	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
「カナモジニュース」	カナモジカイ	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
機械	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
キーン	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
月刊クリツク	アトリエ社	一	一、〇〇	一、〇〇	大學書林	三
教育心理研究	東京文理大	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
教育草	東京文理大	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
現談俱樂部	東京文理大	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
講談俱樂部	東京文理大	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
郷土教育	郷土教育聯盟	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
國語教育	保科孝一	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
史蹟名勝天然紀念物	文部省	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
思想	文部省	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
自治機關	文部省	一	四、〇〇	四、〇〇	植民	三
史潮(年三回)	大塚史學會	一	七、〇〇	七、〇〇	植民	三
受驗旬報	歐文社	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
受驗新報	歐文社	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
少年俱樂部	歐文社	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
少年俱樂部	歐文社	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
初級支那語	歐文社	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
植民	植民	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三
書誌學	植民	一	一、〇〇	一、〇〇	植民	三

書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號	書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號
書物春秋	書物春秋會	一	三、〇〇	〇、〇〇	明治堂	一〇	初ドイッ語	關口存男	一	三、〇〇	〇、〇〇	尙文堂	二四
心理學研究	東京帝國大學 日本心理學會	一	一、〇〇	〇、〇〇	岩波書店	八二	東京堂月報	權田保之助	一	一、〇〇	〇、〇〇	東京堂	六四
月刊スビード	日本自動車 學校出版部	一	四、〇〇	〇、〇〇	日本自動車 學校出版部	九	獨語研究	權田保之助	一	三、〇〇	〇、〇〇	有朋堂	二八
月刊稅	國民租稅協會	一	一、〇〇	〇、〇〇	帝國地方 行政學會	三	獨佛英醫家の語學	權田保之助	一	一、〇〇	〇、〇〇	南山堂	三六
月刊地方行政	帝國地方 行政學會	一	一、〇〇	〇、〇〇	帝國地方 行政學會	二四	月刊雜誌	東京市政 調查會	一	五、〇〇	〇、〇〇	東京市 政調查會	六〇
月刊地理教育	地理教育 研究會	一	五、〇〇	〇、〇〇	中興館	二七	圖書月報	內務大臣官房 文書課	一	五、〇〇	〇、〇〇	東京書籍 組合事務所	五
治療及處方	東京帝國大學 醫學部	一	六、〇〇	〇、〇〇	南山堂	三五	週內務時報	佐川春水	一	三、〇〇	〇、〇〇	尙文堂	二
哲學雜誌	東京帝國大學 哲學會	一	四、〇〇	〇、〇〇	岩波書店	八〇	月刊日進英語	佐川春水	一	三、〇〇	〇、〇〇	尙文堂	三
電氣工學	東京帝國大學 電氣工學會	一	三、〇〇	〇、〇〇	出版部	二四	月刊日本とアメリカ	日本聯合衛生學會 聯合會	一	三、〇〇	〇、〇〇	日本の ローマ字 及社	六三
電氣之友	東京帝國大學 電氣工學會	一	三、〇〇	〇、〇〇	電氣之友社	三	日本聯合衛生學會 聯合會	日本聯合衛生學會 聯合會	一	三、〇〇	〇、〇〇	日本の ローマ字 及社	六三
傳道	東京帝國大學 傳道會	一	三、〇〇	〇、〇〇	電氣之友社	三	ねらひどころ	日本聯合衛生學會 聯合會	一	三、〇〇	〇、〇〇	日本の ローマ字 及社	六三

書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號	書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號
農業經濟研究	東京帝國大學 農業經濟學會	一	一、〇〇	〇、〇〇	岩波書店	八三	幼年俱樂部	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
農村の日本	板倉豐	一	一、〇〇	〇、〇〇	合資會社	五九	理學界	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
美術研究	帝國美術院 美術研究所	一	一、〇〇	〇、〇〇	岩波書店	八三	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
富士	富士會	一	一、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	九三	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
婦人俱樂部	大日本 雜誌社	一	一、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	九三	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
婦人之友	羽仁もさ子	一	一、〇〇	〇、〇〇	婦人之友社	四	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
月刊ふらんす	法學	一	一、〇〇	〇、〇〇	白水社	五	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
月刊寶生	東北帝國大學 法學會	一	一、〇〇	〇、〇〇	白水社	五	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
月刊音樂	音樂雜誌	一	一、〇〇	〇、〇〇	白水社	五	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
月刊モジトコトバ	カナモジカイ	一	一、〇〇	〇、〇〇	カナモジカイ	二	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九
月刊P・M	カナモジカイ	一	一、〇〇	〇、〇〇	カナモジカイ	二	理想	理想社	一	四、〇〇	〇、〇〇	大日本 雜誌社	一九



〔六〕年鑑

書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號
朝日年鑑	朝日新聞社	一	八、〇〇	三、〇〇	東京朝日新聞社	一〇七
警察年鑑	警視廳編輯部	一	二、〇〇	〇、八〇	警視廳	一
警察年鑑	警視廳編輯部	一	二、〇〇	〇、八〇	警視廳	二
國際聯盟年鑑	朝日新聞社	一	八、〇〇	〇、八〇	朝日新聞社	一〇八
昭和八年國民年鑑	國民新聞社	一	七、〇〇	〇、八〇	國民新聞社	一〇九
昭和八年兒童年鑑	志村文藏	一	六、〇〇	〇、八〇	野ばら社	一一〇
出版年鑑	東京堂	一	八、〇〇	三、〇〇	東京堂	一一一
出版年鑑	東京堂	一	一、〇〇	二、〇〇	東京堂	一一二
出版年鑑	東京堂	一	一、〇〇	二、〇〇	東京堂	一一三
出版年鑑	東京書籍商組合	一	五、〇〇	三、〇〇	東京書籍商組合	一一四
政治經濟年鑑	東京政治經濟研究所	一	三、〇〇	三、〇〇	日本評論社	一一五
世界政治經濟年鑑	東京政治經濟研究所	一	三、〇〇	三、〇〇	岩波書店	一一六
綜合出版年鑑	圖書研究會	一	一、五〇	三、〇〇	大阪屋敷	一一七
大東京年誌	高橋重治	一	一、〇〇	三、〇〇	協計資料會	一一八

圖書總目錄（畢）

書名	著譯者	冊	定價	郵稅	發行所	番號
日本政治經濟年鑑	東京政治經濟研究所	一	一、五〇	三、〇〇	岩波書店	一一九
日本都市年鑑	東京調查會	一	五、〇〇	三、〇〇	東京調查會	一二〇
文藝年鑑	文藝家協會	一	一、七〇	二、〇〇	新潮社	一二一
羅馬字年鑑	東京帝大羅馬字會	一	一、五〇	〇、四〇	羅馬字會	一二二
A London chronicle	Frank H. Lee	一	一、五〇	一、〇〇	北星堂	一二三
1933 Edition Japan Times year Book	ジャパンス社	一	五、〇〇	三、〇〇	ジャパンス社	一二四
The English country Calendar	Frank H. Lee	一	一、〇〇	〇、八〇	北星堂	一二五

昭和八年九月廿五日印刷  
昭和八年九月廿八日發行



編輯者兼發行者  
印刷者  
印刷所  
印刷所  
印刷所

定價金八圓

東京市神田區駿河臺一丁目二番地  
東京書籍商組合  
代表者 上原才一郎  
東京市京橋區湊町三丁目十二番地二  
村田善彦  
東京市京橋區湊町三丁目十二番地一  
株式會社 大倉印刷所  
東京市神田區小川町一丁目十一番地  
宮本印刷所  
東京市神田區三崎町三丁目十八番地  
明章印刷所

發行所

東京市神田區駿河臺一丁目二番地  
東京書籍商組合事務所

電話神田 八五四番  
振替東京 三一〇〇三番

發賣所

東京市神田區表神保町二番地  
栗田書店

電話神田 〇四三九・三九三六番  
振替東京 一一二三四番

# 書籍の御註文は栗田へ!!

この「圖書總目錄」掲載の

全發行所の書籍を取次します

他店發行書の取次について

○弊店の同業書籍取次部は最も充實して居ります。絶へず都下全發行所の出版物を取揃えて居ります。今回この機關を利用して讀者諸氏の御便宜をも計る事にしました。どの發行所の出版物でも小店發行書・發賣書と同様に、直ぐ御取次しますから多少に不拘御註文下さい。親切丁寧、迅速、確實を目標とした營業は、乍不及弊店が過去十數年に亘つて最も力を盡して實行して来たところであり、御註文に對しては必ず御満足なさるやう御取計ひ出来る點で、いさゝか自負して居ります。何卒充分御利用賜度く御願ひします。○他店發行書の御註文は一切前金で御願ひします。御送金には振替便の御利用を御奨めします。

東京市神田區表神保町二

栗田書店

振替東京一三三四番  
電話 〇六四七番  
神田 (25) 二二八九番

經濟學博士 阿部賢一編

## 經濟日記

一九三四年版 (逐年刊行)

四六判上製  
五百餘頁  
定價一圓  
(送料二十錢)

て最寄書店に  
實物を!

- ★一般經濟界の羅針盤
- ★株式相場其其他投資の活資料
- ★經濟人(現代人)の机上・日用辭典
- ★記入欄の豊富・摘要の簡明正確
- ★附録項目の多種多様・資料の正確

日記界の  
最高峯!!

—だ徴特の記日本がれこ—

圖書月報

出版年鑑

全國書籍商組合員名簿

東京書籍商組合史

毎月一回發行  
一部定價五錢  
一ケ年十二冊  
送料共六拾六錢

每年發行  
實價五拾錢  
送料十二錢

昭和七年四月調  
全一冊  
實價五拾錢  
送料六錢

菊判一布裝  
全一冊  
實價十二錢  
送料二錢

發行所

東京市神田區駿河臺一丁目二番地

東京書籍商組合事務所

振替東京一三〇〇番

資源局編纂

# 米國總動員計畫

菊判二四〇頁 定價一圓五十錢 送料十錢  
別刷附録圖表(二頁大)十四枚挿入

「米國總動員計畫」の發刊に際して

資源局總務部長 松井春生  
兼企畫部長

軍備の効果が一に其の背後に存する一般国力、殊に經濟力  
の間に於ける所なきは、各國とも世界大戰に於ける苦い經驗に依り  
所である。故に、各國とも世界大戰に於ける苦い經驗に依り  
有事の際に及ぶ資源を統制運用するの準備に、向つて今  
や著々歩を進めつつある。凡そ國力の全盛を擧げて、向つて今  
なる理解の間に、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
國民の間にも、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
最も要するべき事項に、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
今資源局が其の調査に關するの十分の準備がなされて、  
紹介するが、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
に敘するが、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
本誌は米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
府の戦時方重委員の記録と探録とを著し、之に依り  
るときは、彼國に於ける總動員計畫の十分の準備がなされて、  
し、官民一致の協力が十分の準備がなされて、  
るのである。此れが、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
余は、現下の非常時局に當り、本書の如き信憑すべき資料  
に依り、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
やがて我國總動員計畫の十分の準備がなされて、  
るのである。此れが、米國總動員計畫の十分の準備がなされて、

## ▲詳細内容見本進呈

千葉龜雄編

# 新聞語辭典

四六判上製四〇〇頁 定價一圓六十錢 送料十二錢

およそ現代に生きて能率的な生活を営まうとする民  
衆にとつて、何より貴重なのは、新知識と新現象の把  
握であらねばならぬ。それが爲には、新知識と新現象  
を象徴する、「新聞語」を理解せしむるに、その目的が達せ  
られない。舊新聞語の一切と共に、大量生産される新  
聞語の、殆んど全部を網羅して、摩登文化索引た  
るべき「新聞語辭典」出現の動機がここに在る。然り。  
新聞語一切の識得は、そのまゝで、現實文化一切の、  
手つ取り早い速習學校である。知識速成の能率化と、  
精確化の必要は、新百科全書時代としての「辭典時代」  
を呼び來した。しかもこの「新聞語辭典」は、辭典時代  
の最高且最尖端の辭典たるべき資格を充分に擔ひ得る  
であらう。

經濟學博士 阿部賢一編

# 新經濟記事の基礎知識

附 重要事項圖表

四六判一千百頁 定價二圓五十錢  
クロース上製函入 送料二十二錢

經濟は社會生活の根柢であり、其現象の活  
潑なる動きを反映する新聞の經濟面を完全に  
理解し判断し得ることは個人の生活の向上に  
とつて必要なるは固より、一切の社會人に負  
はされたる義務でなければならぬ。本書は都  
下大新聞經濟部記者の精銳廿數氏が豊富なる  
經驗と知識とを傾倒して成れる共同勞作であ  
り、其内容は基礎的にして實際的、適切にし  
て平明、堂々たる此一巻の活文字は悉く利用  
され得べく、本書を座右にして日日の新聞を  
讀めば複雑なる記事も通曉せざる所なく興味  
と利益は多大であらう。

▲別冊各國貨幣法定平價換算表 贈呈  
▲附録金に關する各國法制集 贈呈  
▲詳細内容見本送呈

法學博士 米田實序 前時事新報 調査部長 小川節著

# 新政治記事の基礎知識

附 重要事項圖表

四六判六百餘頁 クロース上製 定價二圓 送料十八錢

新聞は現代人の生活に缺くべからざる一部  
分であり殊に其の政治外交記事に就いて正確  
な知識を有することは現代人たるに最も大切  
な資格である。今日の政治外交は多事多端、  
其動向は複雑微妙を極む。著者は斯界の表裏  
を知悉せる人、其蘊蓄を披瀝したる此書は、現  
代の政治外交の歴史と組織とを簡潔平易に解  
剖説明して然も盡さざる所なき一巻のエンサ  
イクロペディアを成し、本書に據れば如何なる  
新聞記事も其相互の關聯に於て理解され、  
其背景と展望とに於て把握され得る。これこ  
を現代に最も適しき公民讀本である。

▲別冊附録 經濟便覽 贈呈  
▲詳細内容見本

振替東京一三二四番  
電話神田 〇六四七番  
二二七九番

發行所 東京神田栗田書局

振替東京一三二四番  
電話神田 〇六四七番  
二二七九番

發行所 東京神田栗田書局

商學博士 田中 貢著

### 改訂 日本工業政策

菊判三八八頁 クロス装函入 定價三圓 送料二十四錢

農業國より工業國へ、粗製工業より精製工業へ、これ日本經濟當然の進路である。然るに我國は資源に乏しく、原料の大半を海外に仰ぎ、然も技術労働乏悪なる爲め、翻譯的工業政策に依るはなかつた。仍本書は我國特有の事情を基礎とし、原料と資金の調達策と技術労働の向上策を具體的に詳述した我國最初のものにして、工業家、政治家、學生必讀の書である。

#### 目次大要

- 第一章 工業政策概説 第一節 工業政策の意義 第二節 工業の意義 第三節 工業の種類 第四節 工業に關する經濟組織 第五節 國民經濟上に於ける工業の地位 第六節 工業政策變遷 第七節 工業政策の範圍
- 第二章 生産政策 第一節 生産政策の目標及範圍 第二節 生産要素の増加 第三節 經營の規模・組織・能力 第四節 技術と能力 第五節 標準化・單純化 第六節 保護助長
- 第三章 分配政策 第一節 分配政策の目的及範圍 第二節 節財物の分配 第三節 經營管理權の分配

商學博士 田中 貢著

### 鐵鋼及機械工業

菊判三七六頁 クロス装函入 定價三圓五十錢 送料二十四錢

工業品中人類の最も多く需要するものは、織物と金屬品であり、即ち織物の纖維工業と金屬品の鐵工業とは正に世界の二大工業である。本書は此等鐵鋼及び機械工業に關し、富國策から見た根本對策を講じつつ、其生産販賣組織の合理化政策を具體的に述べ、將來一大輸出工業たり得る機械工業をして自給獨立と海外市場進出に必要な方策を論述したものである。

#### 目次大要

- 第一章 概説 第二章 鐵鋼の生産 第三章 鐵鋼の需給・取引・價格 第四章 鐵鋼業の經營・組織 第五章 鐵鋼業の保護獎勵施設 第六章 鐵鋼將來の對策 第七章 機械工業 第八章 造船業 第九章 自動車工業 附表 七圖

商學博士 田中 貢著

### 繭生糸の將來

菊判三四二頁 定價二圓五十錢 クロス装函入 送料二十錢

土地と肥料の高價な我國に於ては、農村の振興は高級集約な農業の發展に俟たねばならぬ。然るに我蠶絲業は外、人絹と支那蠶業の壓迫を蒙り、内、價格の激變に苦しみ昨今に至りては殆ど絶望的の慘狀を呈するに至つた。本書は此現狀を打開し永遠の發達を圖らんとするために、具體的に改善策を詳述したものであり、正に養蠶家、製絲家、政治家、學生必讀の書である。

#### 目次大要

- 第一章 概説 第一節 繭言 第二節 蠶絲業の概念 第三節 蠶絲業の發達
- 第二章 蠶絲業の現狀 第一節 蠶種業 第二節 養蠶業 第三節 生絲の生産 第四節 製絲金融 第五節 生絲の販賣
- 第三章 蠶絲業の將來 第一節 蠶種業の將來 第二節 養蠶業の將來 第三節 製絲業の將來
- 第四章 人造絹絲工業と支那蠶業 第一節 人造絹絲工業 第二節 支那の蠶絲業

野田兵一著

### 新聞經濟面の讀み方

四六判四四六頁 定價一圓五十錢 クロス函入 送料十二錢

本書一度出版されるや、これは經濟知識の羅針盤だ、と全國的各方面に一大センセーションを起し、増刷に増刷！ 悉く賣切れ、出版界空前の人氣を博した。何故本書が斯くの如く大衆の壓倒的支持を受けたか、それは一般の人々が今迄あまり興味を持たなかつた新聞の經濟記事を、平明簡易に解説した點において本書の右に出づるものがなかつたからである。

#### 目次大要

- 第一章 新聞經濟面の概観 第二章 金融記事の讀み方
- 第三章 信託の話 第四章 保險の話
- 第五章 外國爲替の記事 第六章 公債と社債
- 第七章 豫算の話 第八章 經濟團體
- 第九章 相場記事の讀み方

發行所 東京 神保町 栗田書店 電話 〇六三三番 振替 東京 〇六三三番

發行所 東京 神保町 栗田書店 電話 〇六三三番 振替 東京 〇六三三番

橋 輝 政 著

# 野口英世博士傳

四六判二一六頁 定價一圓五十錢  
クロース装兩入 送料十二錢

## △文部省推薦

本は貴き人命を蝕む凡百微生物を征服せる世界人類の父、科學の聖、野口英世博士が福島縣猪苗代湖畔の一貧家より身を起し、遂に世界醫學の王座を占めるまでの過程、及び西亞弗利加アキラの海岸に劇的殉職を遂げるまでの雄々しくも亦至純なる五十三年の全生涯を、正確詳細に傳へる唯一の書だ。全日本人、本書を讀んで博士の偉大なる足跡から學べ！

△野口英世博士額面用寫眞贈呈

明治大學教授 赤神良讓 著

# 社會學入門

四六判三八〇頁 クロース裝 定價二圓 送料十二錢

社會學は社會進化の大法則を吾々に指示する學問である、著者は先づ社會學とは何んな學問であるか、どんな科學であるか、といふことから説き起し縦横に社會の總ての現象學説を誰れにも解るやうに論じてゐる。先きに中央放送局で社會學を放送し、明治、東洋の兩大學の社會學の教授である著者の此の快著「社會學入門」は社會問題に關心を有するものの必讀書である。

醫學博士 服部彌二郎 著

# 榮養と食餌療法

附録Ⅱ 榮養辭典(一二四頁)

四六判五一八頁 定價三圓五十錢  
クロース装兩入 送料二十四錢

- 要 大 次 目
- 一、榮養概論
  - 二、各科疾患の食餌療法
  - 三、主なる病人食餌の様式と其應用範圍
  - 四、食餌療法を行ふに際して注意しなければならぬ特別の場合
- 榮養辭典(日次大要)健康人の保健食餌、病人食の主要材料の用ひ方、病人食調理法、流動食、半流動食、軟菜、飲食物及嗜好品分析表

醫學博士 正木不如丘 著

# 家庭の醫學と治療法

附録Ⅱ 榮養辭典(一二四頁)

四六判四二二頁 クロース装兩入 定價二圓 送料十二錢

趣味は人の心を豊かにする。かう云ふ意味に於いてすべての科學を趣味的に親しみ易く解説することは何よりも大切なことである。病氣及び其治療法もこれを趣味的に親しみ易く取り扱ふことによつて正しく一般人の心を豊かにすることが出来る。本書は醫學と治療について各家庭で即時役立つようになり、しかもそれを小説を讀むより面白く書きこなした點で天下一品である。

## 元光社發行

# 元光社發行 申込募集

▲詳細内容に見て  
▲自由分責し  
▲進呈す

## 日本釣魚學會々長 村上靜人著(姉妹講座)

### 川の釣魚十二ヶ月講座(全八卷)

總ての魚類には必ずその釣れる旬と謂ふものがある。換言すれば、總ての魚類はその時期、即ちその月の異なるにつれて、必ずや、その月に最も好適した釣場と、仕掛と、餌と釣方とがある筈である。そして、これは總ての釣人が、常に最も頭腦を働まして、苦心研究してゐる處で、これらに就いて、最も解り易く解説し、初心者唯一の最好伴侶となり、指導者となるやうに企てたのが本書の目的である。故に、今日突然釣魚に出掛けやうと思ふ時、本書八冊を揃へて置けば、如何なる初心者も即座に、その月に釣れる海と河との魚の種類を知り同時に、その時期に最も好適した釣法即ちその仕掛、その餌、その釣方を熟知することが出来る。依つて、本書は一面初心者の釣魚の手ほどきとなり、また一面には釣魚の年中行事としての釣暦ともなるので、本書を「川の釣魚十二ヶ月講座」と稱したのである。

★第六卷まで刊行済・七、八巻續刊

四六判上製・函入美本		定 價	送 料
第一卷	春の巻(1)(三月)	一〇〇	〇
第二卷	同(2)(四月)	一〇〇	〇
第三卷	同(3)(五月)	一〇〇	〇
第四卷	夏の巻(1)(六月)	一〇〇	〇
第五卷	同(2)(七月)	一〇〇	〇
第六卷	同(3)(八月)	一〇〇	〇
第七卷	秋の巻(九、十、十一月)	一五〇	〇
第八卷	冬の巻(十二、一、二月)	一五〇	〇

## 川の釣魚秘傳全集(全十二卷)

### 海の釣魚秘傳全集(全十二卷)

本全集は、著者が數十年間に亘り、日本全國東西各地釣遊の實際の體験と研究とを基礎とし、海河一般の釣魚を網羅したものである。内容は魚の習性を始め、仕掛の作り方、餌の撰擇、釣具の吟味から、釣場の選定法、釣り方、釣場案内等の萬般に亘り、極めて懇切丁寧に詳説し、これに加ふるに口繪寫眞、釣具一般の圖解を附し、一讀誰れにも了解の行くやうに、平易に述べてあるのが本全集の特色である。眞に「釣魚の虎の巻」として又座右の相談相手として、一冊必ずなくてはならぬ寶典である。

第一卷	鮎の釣り方	(既刊)
第二卷	ヒガヒ(ウグヒ)の釣り方	(既刊)
第三卷	ハエ(ハイ)の釣り方	(既刊)
第四卷	鮎の友釣	(既刊)
第五卷	鮎の友釣	(既刊)
第六卷	アブギス・シロギスの釣り方	(既刊)
第七卷	黒鯛・穴子の釣り方	(既刊)
第八卷	セイゴ・フツコ・スヤキの釣り方	(既刊)
第九卷	野鯉・釣堀の鯉の釣り方	(近刊)
第十卷	アサヒ・サバ・タラの釣り方	(近刊)
第十一卷	ハセ・コチ・カレヒの釣り方	(近刊)
第十二卷	イナ・ボラの釣り方	(近刊)

東京表神保町 栗田書店 所捌賣  
電話 〇六四七番  
東京表神保町 栗田書店 所捌賣  
電話 〇六四七番

東京表神保町 栗田書店 所發行  
電話 〇六四七番

元光社刊行書目

日本釣魚學會々長村上靜人編 (新刊)  
**釣人日誌**

四六上製・三二〇頁・定價一圓二十錢・送料十二錢

國民新聞經濟部長長谷川光太郎著  
**相場記事の見方**

四六上製・二五〇頁・定價九十錢・送料十錢

堀田善太郎著

**宣傳術と催物の實際手續**(附「机上便覽」)

四六上製・五百餘頁・定價一圓五十錢・送料十四錢

日本舞踏教師協會々長 玉置眞吉著

誰れにも **社交ダンスの仕方**

直ぐ出来る 四六上製・定價一圓五十錢・特價一圓三十錢・送料十二錢

玉置眞吉著 練習用足型付(ワルツ)

誰れにも **ワルツの踊り方**

直ぐ出来る 四六上製・定價一圓五十錢・特價一圓三十錢・送料十二錢

玉置眞吉著

**フォックダンス・トロットの踊り方**

四六上製・定價一圓五十錢・送料十二錢

★釣人必備の重寶日誌!  
 詳細記入欄二百頁 附録 内容概目  
 一釣糸の一般釣法 二釣魚の種類 三釣魚の季節 四釣魚の道具 五釣魚の準備 六釣魚の場所 七釣魚の時間 八釣魚の注意 九釣魚の心得 十釣魚の楽しみ 十一釣魚の歴史 十二釣魚の文化 十三釣魚の経済 十四釣魚の政治 十五釣魚の社会 十六釣魚の教育 十七釣魚の研究 十八釣魚の発展 十九釣魚の展望 二十釣魚の未来  
 (記入自在の自由日記)

新聞の經濟欄には總ての經濟現象が報導される。その經濟欄を指導してゐるものは相場記事である。本書は、如何にして相場記事を読むべきか一々例をあげて平易簡明誰れにも解らやうに書いてある。しかも廉價な點に於て本書の右に出るものがない。

猫の目のやうに變る世の中で、群がる競争者を相手に商賣をする。誰れが商賣上手か、誰れが落伍者か、よい商品を上手に宣傳すること、これは衆口の一致する所だらうが、サテ其の宣傳の効果を極度に發揮する方法は? 本書は、理論と實際とを兼ねた宣傳術の圖書館である。

★基礎練習と新ステツプ

本文附録……舞踏會の種類と其作法  
 別冊附録……社交ダンスの服装の心得  
 別冊附録……實物大練習用足型 (フォックダンス・トロット)

舞踏家 石井 漢 氏曰く

玉置君は、その音楽的閱歷、學校教師の經驗、それらが相助けて、君のダンス振りは音楽的正確、容姿端麗今日他に比すべき人が見當らないと共に、その教授は心理的に考案せられた獨特のもの、本書は同氏が日常練習生に教へた教案を基礎として書かれたもので、各種ステツプの解剖の行き届いてゐること、各科ダンスの解釋の正確なこと、また初心者にも理解し易いために多數の寫眞及び圖解を以て親切に説明し、樂譜の挿入、練習用足型圖の添付等實に他に比類を見ないものであると信ずる。

振替東京一三二四番  
 電話六〇四七番  
 電話二七九番

東京表神田町 栗田書店 所捌賣

終